

## 2008 年度 システム技術分科会第 2 回会合

## 「組織と認証 ～誰を認証すべきか～」

- 日 時 : 2009 年 1 月 29 日(木) 12:50 ~19:30 [12:20 受付開始]  
 ➤ 会 場 : 富士通(株)本社 24 階 大会議室 [東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター]

## ■ ■ プログラム ■ ■ [敬称略]

受付 12:20~

開会挨拶	岡村 耕二 (九州大学情報基盤研究開発センター)	12:50~13:00
◇ WG 成果報告 司会 吉田 和幸(大分大学)		
(1) セキュリティマネージメント WG 成果報告 ーアカデミック機関でのセキュリティマネージメント BCP(ベストカレントプラクティス)ー 高エネルギー加速器研究機構 湯浅富久子		13:00~13:40 報告:30分/Q&A:10分
情報システムの構築にセキュリティという要素が欠かせなくなってきた。ほぼ 10 年が経過した。その間にテクノロジーの進歩や規則整備の努力によりアカデミック機関における情報セキュリティ対策は一巡した。しかし一方で、情報システムをとりまくセキュリティ情勢は厳しさを増している。このような状況のもとでは、最新のテクノロジーを理解するにとどまらず、情報セキュリティマネージメントという視点からセキュリティ対策を継続していかなければ、リスクの激しい変化や増大する業務に対応していくことは困難である。セキュリティマネージメント WG は、実現可能なセキュリティ対策を設計、実装、検証するために役に立つマネージメント・ノウハウをわかりやすくまとめることをテーマに活動を続けてきた。2 年間にわたる活動が終了したので、ここで活動の成果報告を行うとともに成果物を SS 研ホームページに公開する。		
◇ 組織における認証 (認証基盤チュートリアル報告)		
(2) 私は誰? ー組織、そしてサービスから見た認証と UPKIー 京都大学学術情報メディアセンター 岡部 寿男		13:40~14:40 報告:50分/Q&A:10分
組織における認証・認可の課題を、大学における認証システムの構築に絡めて考察する。まず「誰を認証すべきか」の視点から、大学が情報システムの利用者として扱う必要がある対象を分類し、それぞれに対するアカウント発行時の身元確認や失効の手順について、セキュリティポリシー上の要請も含め概説する。一方「私は誰?」、すなわち利用者側がどういう立場で情報システムを扱おうとしているか、さらにそれをいかに情報システム側に伝えるかの観点から、認証と権限管理の分離の必要性について述べ、京都大学における統合認証システムの運用の状況を紹介する。最後に、組織をまたがる認証として大学間連携のための全国共同電子認証基盤 (UPKI) 構築の取り組みについて述べ、組織間の認証連携 (Federation) の仕組みと、「私は誰?」かどこまで明らかにしてよいかなど組織間のプライバシー保護の課題についても考察する。		
(3) キャンパス無線 LAN における認証連携と国際ローミング基盤 eduroam 東北大学サイバーサイエンスセンター 後藤 英昭		14:40~15:20 報告:30分/Q&A:10分
大学等のキャンパス無線 LAN には、認証の信頼性や運用面に関して、商用の公衆無線 LAN とは異なった問題が多数存在する。近年、授業・会議等における教職員・学生の大学間の移動に対応するために、キャンパス無線 LAN の相互利用環境が求められている。欧州で開発された eduroam は世界規模で利用されているローミングシステムであり、日本でも 2006 年に加盟した。現行の eduroam には幾つかの問題が指摘されており、ゲストネットワークの分離や利用者のロケーションプライバシーの問題などが近年の関心事である。本講演では、キャンパス無線 LAN に特有の問題を紹介し、大規模ネットワークにおいて完全には信頼できない相手とローミングを実現する場合の問題点と対策例、およびネットワーク構成に対する要求を概説する。また、学内の部局が草の根的に無線 LAN システムを構築しながらも、安全で使いやすい無線 LAN ローミングを学内で実現できる、東北大学のユニークな取り組みを紹介する。		
休憩 15:20~15:40		
◇ 組織における認証 (事例紹介) 司会 齋藤 孝道(明治大学)		
(4) 日本最大規模のキャンパス認証ネットワーク ~HINET2007 の構築と運用~ 広島大学情報メディア教育研究センター 西村 浩二		15:40~16:20 報告:30分/Q&A:10分
広島大学では平成 20 年度より新キャンパスネットワーク HINET2007 の運用を開始した。HINET2007 では、全学約 450 台のエッジスイッチが全学電子認証システムと連携してすべてのネットワーク利用者を認証するほか、全教員数に相当する約 2,000 個の独立したファイアウォール機能を提供し、安全かつ柔軟な環境を提供している。本報告では、HINET2007 の概要とその構築手法、それぞれの機能の性能評価の結果、運用を支援する体制やシステムについて述べる。		
(5) 増えるシステム、認証管理をどう軽減するのか ー福岡大学における統合認証ー 福岡大学総合情報処理センター研究開発室 奥村 勝		16:20~17:00 報告:30分/Q&A:10分
福岡大学では、平成 17 年度より学生教育生活支援や事務業務システムなど多数の情報システムを立ち上げた。これに際し、増加する情報サービスの利便性確保と、認証情報の管理業務を軽減するために、学内利用者の ID とパスワードを共通化し、一元管理する統合認証システムを併せて構築し、運用を開始した。稼働後 4 年を経過した統合認証システムの導入の経緯、運用状況、今後の課題について報告する。また、本認証システムにより提供する各種サービスや IC カード学生証との情報連携について紹介する。		
(6) 組織の壁を超える利用者グループ概念の導入 ー農林水産研究における新しい認証基盤ー 農林水産技術会議事務局筑波事務所 宮坂 和孝		17:00~17:40 報告:30分/Q&A:10分
異なる組織の研究者間で利用可能な Wiki 等の情報共有サービスは、産学官連携研究等の推進に有用であるが、適切なアクセス制限を行う必要がある。当所では、平成 21 年 3 月稼働予定のシステムにおいて、メールアドレスを ID とする「外部登録利用者」という利用者区分を新設し、利用者の所属の内外を問わない WebSSO 環境を提供する。加えて、既存のメーリングリストを「組織の壁を越えて作成可能な利用者グループ」と位置づけ、グループ情報管理データベースを整備することにより、利用者情報・グループ情報に基づいた柔軟なアクセス制限を行いつつ利用可能な情報共有サービスを実現する。本稿では、この新しい認証基盤のコンセプトと利点の説明、および実装の紹介を行うとともに、今後外部組織と認証連携を行う際の方策について述べる。		
閉会挨拶	岡村 耕二 (九州大学情報基盤研究開発センター)	17:40~17:45
懇親会	会費: ¥500	18:00~19:30
# お飲物と乾き物のみをご用意した、参加者のための情報交換会です。		

## 開催趣旨

大学などに統合認証のためのシステムが導入されはじめて久しい最近では、統合認証も実証的なものから、実用的な重要なものへと移行してきました。この背景には、大学や研究機関では、組織内部の人間と組織外部の人間が、共有していたシステムで組織の重要な情報資産を扱いはじめた事例が多いということあげることが出来ます。例えば、部外者である来学者にインターネットアクセスのサービスを提供する無線 LAN は、従来組織で利用しているネットワークが用いられることが多かったのが、最近では情報資産のセキュリティ上の問題からできなくなってきました。そのため、組織の人間を認証するための仕組みが実用上本当に必要になってきました。さらに、実用上の重要な問題の一つとして、組織の人間の定義そのものに苦慮している組織も多いという現状があります。このような問題を解決するためには、統合認証システム運用のルール作りや、認証システムそのものの柔軟化、あるいは柔軟な運用が求められます。

このような背景で、本分科会では、実用的な統合認証システムの構築をされている組織の方を講師として呼び出し、特に統合認証を実用的に運用するための技術、ノウハウ、事例などについて御紹介して頂きます。

また、本分科会では冒頭でセキュリティマネージメントWGの成果報告会があります。こちらも、セキュリティ一般について最新の情報を収集するよい機会だと思います。

## 会場へのアクセス

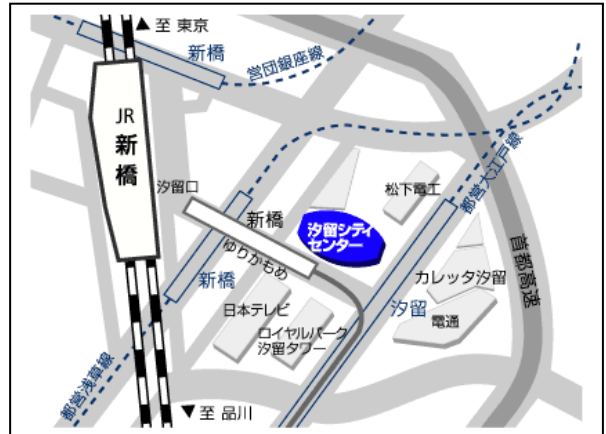
★汐留シティセンタービル1階「富士通総合受付」にお越しください。

### ●電車でのアクセス

- JR 新橋駅  
汐留口（地下1階）から徒歩3分
- 東京メトロ 銀座線 新橋駅 (G08)  
出口4（地下1階）から徒歩3分
- 都営地下鉄 浅草線 新橋駅 (A10)  
汐留方面出口（地下1階）から徒歩2分
- 都営地下鉄 大江戸線 汐留駅 (E19)  
JR・ゆりかもめ新橋駅方面出口  
（地下2階）から徒歩1分

### ●羽田空港から新橋駅までのアクセス(約30分)

- 東京モノレールと JR 山手線  
羽田空港 から 浜松町 経由 新橋駅
- 京浜急行と都営浅草線  
羽田空港 から 都営浅草線 新橋駅 (A10)  
#成田空港行や押上りなど、都営浅草線直通電車をご利用ください。



## 参加について

- ▶ 参加対象： SS 研, CS 研, IS 研会員の方であれば、どなたでもご参加いただけます。
- ▶ 参加費： 無料 ただし懇親会に参加される場合は、会費として 500 円を徴収させていただきます。
- ▶ 定員： 100 名(予定)です。
- ▶ ご注意： 当日、会場にお越しいただく際のエレベータは、昼食時間帯のため、大変な混雑が予想されます。時間に余裕を持って、ご来場ください。
- ▶ なお、当日お越しの際はお名刺をお持ちください。

## お申し込み・詳細 (SS 研 Web サイト)

お申し込み/詳細

<http://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/activity/sectionmeeting/stg/program2008-2.html>



## 【お問い合わせ】SS 研究会事務局

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター 富士通(株)カスタマーリレーション部内  
TEL:03-6252-2582 FAX:03-6252-2934 URL:<http://www.sskn.gr.jp/> E-mail:[ssken@ssken.gr.jp](mailto:ssken@ssken.gr.jp)